

素町人的社会主義者と社会民主主義者

彼らは、すでに現実を直視し、そして、ロシアにはブルジョア的な社会・経済関係と、寿命の尽きた農奴制的社会・経済関係とのほかには、他のどんな社会・経済関係も存在しなかったし、また、いまも存在していないこと、したがって、労働運動を通じる以外には、社会主義への道はほかにありえないことを、公然と承認できたはずとおもわれるかもしれない。ところが、これらの民主主義者はなにものをもまなばなかった。そして、素町人的社会主義の素朴な幻想は、素町人的進歩のしらふの実用主義に席をゆずったのである。

こんにち、素町人のこれらの思想的代表者たちが、勤労者の利益の代表者として行動するとき、彼らの理論はまさしく反動的である。彼らは、現代のロシアの社会・経済関係における敵対をぬりかくし、「向上」とか「改善」等々の、万能の一般的方策によって事態を改善できるかのように論じ、また、和解や統合が可能であるかのように論じている。彼らが反動的であるというのは、彼らが、わが国家をなにか階級に超越したものとしてえがき、したがってまた、国家が被搾取住民にたいしてなにか真剣な誠実な援助をあたえるのに適し、また、あたえる能力があるかのように、えがいているからである。

彼らが反動的であるというのは、最後に、彼らが、勤労者自身の自己を解放するための闘争、しかも必死の闘争の必然性を絶対に理解していないからである。たとえば、「人民の友」によれば、おそらくは彼らだけでなんでも整備できるということになる。労働者はじっとしていればよい。……………

社会主義者は、すべての素町人的な思想および理論と**決定的に**、かつ**終局的に**絶縁しなければならない。これが、この戦役から引きだされるべき**主要な有益な教訓**である。……………

労働者を絶対主義との闘争に立ちあがらせることが必要であるという結論へは、二つの道によって到達することができる。一つは、労働者を社会主義体制のための唯一の戦士と見る道である。このときには、政治的自由を、労働者の闘争を容易にする一条件と見ることになる。これが社会民主主義者の見方である。もう一つは、労働者を、現代の制度にもっともくらしめられ、もはやなになつ失うものもなく、絶対主義に反対してもっとも断固として行動することのできる人間としてだけ、とりあつかうことである。だが、これは、労働者を、ブルジョア急進主義者の後尾についてあるかせることを、意味するであろう。そして、このブルジョア急進主義者は、絶対主義にたいする全「人民」の共同一致の背後に、ブルジョアジーとプロレタリアートの敵対を見ようとしないのである。

(ハレルヤをうたい、人道的で同情にみちた文句の雨をふりそそぐこと——これこそは、彼らの全「科学」、彼らの全政治「活動」の、アルファであり、オメガである。P266)

第一巻 「人民の友」とはなにか P302~303,311

コメント

「民主主義の外皮のもとに」金権政治の利益と渴望とを代表しているブルジョアジーとの戦い方の二つの道があり、私たちは、常に、労働者を社会変革の主体と見て科学的社会主義の思想（革命の思想）を労働者階級の中に広めなければならない。